



卒業生

教育学部卒業の石澤ゆかりさん、日本陸上選手権大会女子 3000m 障害で優勝

教育学部卒業生の石澤ゆかりさん（株式会社エディオン）が、日本陸上選手権大会の女子 3000m 障害で優勝を果たし、8月に行われるアジア競技大会に日本代表として出場することが内定しました。

石澤さんは2011年に教育学部情報文化課程を卒業し、株式会社エディオンに入社。実業団の長距離選手として駅伝などの大会に出場してきました。30歳を目前に控えた年に主要競技を

3000m 障害に切り替え猛練習に取り組み、見事結果を出しました。

6月29日に水戸キャンパスを来訪した石澤さんは、三村学長や陸上競技部の顧問である渡邊

将司准教授、上地勝教授らに優勝を報告するとともに、同部の練習に参加して、ハードルなどの指導を直接行いました。

「この種目で東京オリンピックに出たい。何かを始めるのに年齢の遅い早いはない、いつでも挑戦すれば何かが変わるといことが伝えられたらな、と思います」（石澤さん）



写真提供：株式会社エディオン



地域・社会



土曜アカデミー 読売新聞連携講座 古文書から学ぶ

図書館土曜アカデミーの読売新聞連携講座「古文書寺子屋へようこそ！一次のもう一歩」が、6月30日に開催され、100人以上が来場しました。「古文書寺子屋」は土曜アカデミーの人気講座のひとつ。今回は市民が地域の古文書について

興味をもち、読み解いたり保存したりすることの意義に焦点を当て、講演形式で実施しました。このうち人文社会科学部の添田仁准教授は、2015年の関東東北豪雨で被災した歴史資料の救出・修復に取り組んでいる茨城史料ネットの活動を紹介。修復の経緯を説明するとともに、被災史料から明らかになった治水事業の系譜やその後の現地調査の成果を報告しました。講演後は史料の洗浄作業のデモンストレーションも行われ、大学院生などが道具や手順を説明し、来場者が体験する姿も見られました。

地域・社会



いばらき子ども大学開校式 678人の“大学生”入学

平成30年度いばらき子ども大学の合同開校式が、6月23日、水戸キャンパスの講堂で行われました。「いばらき子ども大学」は、NPOなどで組織されるいばらき子ども大学実行委員会、茨城県教育委員会、茨城大学社会連携センターの共催事業として平成26年度に始まったもので、今年で5年目。県内の小学4～6年生を対象に募集し、今年は1,078名の応募があり、このうち678名の“大学生”が入学しました。

開校式では、いばらき子ども大学の学長を務める茨城県北生涯学習センターの野口不二子センター長、茨城県教育委員会の柴原宏一教育長、茨城大学の三村信男学長からそれぞれ挨拶があり、約700名の小さな大学生にエールが贈られました。科学、金融、農業、医療、芸術など様々な分野について、県内の5つのエリアで小学生の興味にあわせた授業を企画し、大学等をキャンパスにして、来年1月まで授業が開講されます。

今号の一枚



学生“農プロ”手がける園芸 茨苑会館の裏庭を彩る

おもなメディア掲載

- 6/1 NHK（水戸）『いば6』「大手企業の面接解禁 茨城大で模擬面接」
- 6/2 茨城新聞「関心高まる「働き方」人手不足で学生優位 採用面接解禁 全学教育機構・小磯重隆准教授コメント」
- 6/2 茨城新聞「女性目線で改革へ 出産と育児、議員活動両立 取手、東海で制度化の動き」人社・馬渡剛教授コメント
- 6/3 NHK（水戸）『いば6』「高校野球の名将が「マジック」の真相語る 木内幸男さん講演 茨城大学講堂にて」
- 6/4 朝日新聞「球児の特徵 良く見て采配 木内元監督「マジック」の奥義語る」講堂で高校野球トークショー
- 6/7 日本経済新聞「書評／昭和ノスタルジー解体」人社・高野光平教授著書
- 6/8 日経産業新聞「就勝就喝！働く意識徐々に育む 企業と連携、地元就職促す 茨城大学 全学教育機構キャリアセンター准教授 小磯重隆氏」
- 6/9 茨城新聞「産学官連携で地域振興 茨城大 いばらき CD リーグ発足」
- 6/13 NHK（水戸）『いば6』「成人年齢18歳に 若者は（水戸キャンパスでインタビュー）」
- 6/16 東京新聞ほか「「チバニアン」天然記念物に 文化審審申」理・岡田誠教授
- 6/19 日刊工業新聞「博士課程 製造技術者など社会人特別選抜 茨城大」理工学研究科・量子線科学専攻
- 6/23 朝日新聞「2045年の県人口68万人減 15年比」人社・田中耕一教授
- 6/24 毎日新聞「温暖化の影響解説 茨大でサイエンスカフェ 若月泰孝准教授」
- 6/26 東京新聞「中世の城跡跡保存活用へ 県教委の総合調査始まる 委員長に高橋修 茨城大教授」
- 6/27 河北新報「【富岡町図書館】町民集う場に 茨城大生が蔵書構成や交流行事などコーディネート」

教育・学生



人社・根岸彩夏さん、留学する全国の高校生にエール

人文社会科学部1年生の根岸彩夏さんが、6月9日に文部科学省で行われた「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム 高校生コース」の第4期生壮行会に参加し、先輩留学生を代表して、これから海外へ飛び立つ後輩たちに向けて応援メッセージを贈りました。「トビタテ！留学 JAPAN」は、文科省が官民協働の海外留学支

援制度として2013年から実施している高校生・大学生向けの留学プログラム。根岸さんは高校3年生の夏に第3期生に採用され、夏休みの1か月間をカナダ・モントリオールの語学学校で過ごしました。根岸さんは留学時の経験を紹介した上で、「一度の経験で答えを出さないでほしい。たくさん挑戦して、たくさん失敗をする。自分ではどうしようもないときは、周りの人と一緒にブラッシュアップしていく。このことが、私が皆さんに伝えたいことです」と語りました。壮行会には、日本全国から高校生や保護者、支援企業など約300名（東京会場）が出席し、根岸さんのスピーチに耳を傾けました。